

桜 さくら 始まりの春

まだ4月の中旬なのに初夏を思わせるさわやかな晴れの日が続いている。芽吹き
の柔らかで緑の濃淡がきれいだった時期は短くて、一日一日遅しいばかりに葉を伸ばし
て緑が濃くなっていく。花が好きだった母は庭木も花の咲く木を選んで植えていた。
母が住んでいた家を建て替えるとき、できるだけ木を残してもらった。花の咲き方は
毎年同じではない。去年は見事だった山茶花と椿は今年は控えめであった。その代わ
りと言うか、姫りんごの白い花が実にきれいに咲いてくれた。りんごの産地では花の
咲くころは一面に白い花で、一度見に行きたいと思っているのだが果たしていない。
ふんわりと咲いた白い花を見ながら、一面に咲いていたらどんなにきれいだろうかと
思った。その白い花も終わって、緑が濃く元気に茂った葉っぱと同じ緑の小さな実が
ついている。今は藤が満開を少し過ぎて、これもまた葉っぱと蔓が勢いよく伸びてい
る。もみじもすっかりきれいな浅緑になったし、^{むくげ} 榎もいつものように元気に葉を茂ら
せている。

今年も特にお花見には出かけなかった。でも通り道には桜の名所が三つもある。そ
の一つは最寄の駅に行く途中の小さな公園。住宅街の中にある四角い公園だがその周
りを12本の桜が取り巻いている。満開のときはそれは見事である。そして桜吹雪がま
た見事で、公園がさくら色のじゅうたんを敷いた様になる。さらに葉桜も、緑が柔ら
かくて楽しませてくれる。もう一つはこれも駅に行く途中の川の土手の桜である。4
本ほど並んでいて、これも見事だけど少し離れて1本あるのが、大きくて十分に豊か
に枝を伸ばして、咲き誇ると言う感じで咲くのである。たまたま夜タクシーで通
りかかった時、運転手がきれいな桜ですねと言って見とれていた。それほど見事な
のである。三つ目は、元の職場と今の職場のある四ッ谷の土手の桜である。通勤の電車
からは多摩川の桜や目黒の川沿いの見事な桜も見ることができる。と言うわけで特
にお花見にいけなくても、不満はないと言うわけである。若い頃、桜はどちらかと言
うときらいな花だった。単純に見えたのと、お花見客の酔っ払いがきれいだったのだと
思う。桜の咲くころはまだ春の季節は不安定で、乱調気味である。その頃、緑の無い

ところいきなりあの桜色の花が咲く，そして葉桜になる頃，季節も初夏に向けてき
らめきを増し，芽吹きも一斉に勢いをつけて遅くなっていく。桜は始まりの心もと
なさが似合っている花である。その柔らかさから遅く変化していく時が，春から初
夏への1年で一番好きな季節にいつの頃からか，なっている。

今年，雪印乳業では本格的に新入社員を雇用した。45名，17名が女性。新入社員と
しての研修の最後の日に，3年間の目標をまとめる課題があつて，各自がまとめたも
のをグループで発表し合い，グループから代表が全体に報告するというものだった。
グループで発表するところから参加した。一人ずつの発表についてコメントをしてほ
しいと言われたが，最初の発表者で戸惑ってしまった。コメントなどおこがましいよ
うな立派な内容だったのである。

「親元から離れるので毎日の生活を規則正しくする，それが基礎だから」「任せて大
丈夫と思われるように仕事を習熟する」「自分の考え方をしっかり持つ」「誰にも負け
ない，自分が一番の技術を身につける」「同僚からも上司からも信頼される人間にな
る」「絶対に嘘はつかない」などなど，こんなに感激したことは無いほどに心打たれ
る発言だった。事件以来3年ぶりの本格的な新入社員の雇用である。そこで聞いた素
直で直向きな決意表明であった。社長はじめ立ち会った役員たちの感激の度合いは大
きかった。この元気と明るさが会社を活性化してくれると思った。女性が多いのも良
い。そしてこの会があつたのは桜がまだ5分咲きの頃であつた。それぞれの職場に散
っていった彼らは元気に新しい環境に挑戦していると思う。

この春，家の北側に紫の釣鐘草の様な花が植えないのに咲いている。近所の方から
「お母さんと買ってきた球根です」と教えてもらった。4年もかかって芽をだして花
を咲かせてくれた。うれしいことの多かつた始まりの春であつた。

(雪印乳業株式会社社外取締役・前全国消費者団体連絡会事務局長

日和佐信子・ひわさのぶこ)